



越前古窯博物館 福井県



↑陶器6市町村の六古窯が文化庁の日本遺産に認定（越前町提供） ←2階屋切妻の集落

お歯黒壺（左。室町）と、水瓶（鎌倉）（福井県陶芸館蔵）



文と写真・片岡一郎/フォトジャーナリスト・日本旅のベテランクラブ会員・福井在住。若き頃カルカッタで出会ったTANTRAの謎解きにチベットの文化圏を訪ね歩。



オープンを待つ越前古窯博物館

陶芸村全景（福井県提供）



鄙びた古窯（越前焼）を発信

この4月、日本六古窯（越前焼）が文化庁の日本遺産に認定された。

越前丹生の織田盆地・帯の里山にあつて、草むらに埋もれて眠り続けた多数の窯跡。大正時代から地元の調査が始まり、明治、昭和に渡って東洋陶磁に学術的基礎を築いた小山富士夫が、戦前戦後に現地調査を重ね「わが国で最も重視すべき窯の一つ」と、高い評価を与えた。古越前は水瓶やお歯黒壺のような生活雑器ではあるが、鄙びた美しさが素晴らしい。侘び、寂びの原点である。

当時から小山の指導を受けた地元古窯研究者・水野九右衛門（教師）は、改めて調査研究に生涯を注ぎ、『時代別古越前名品図録』などにまとめ、瀬戸、常滑、信楽、丹波、備前の五古窯に「越前」を並べ、日本の六古窯として知れ渡っていった。

長年収集した陶器、窯跡からの膨大な陶片、調査資料など、自宅内に「水野古陶磁館」を私設した。時を経て福井県は、広大な丘陵地にある越前陶芸村の中に「越前古窯博物館」として、この10月28日に移設開館し、越前の「鄙びた」文化を発信する。